

6月議会

公定料金等の収入に依存している

医療・介護・福祉施設の支援が必要！



今野裕文議員

倉成淳市長は、次のように述べるにとどまりました。

原油価格や物価高騰により影響を受けた生産者や事業者を支援するための重点支援地方交付金を活用して介護福祉施設等に支援を実施してきました。医療機関には市の物価高騰対策支援は行っており、県の支援策の

支援交付金の交付が

あれば検討したい

今野裕文議員は、報酬引き下げだけでなく、人件費や物価高騰で、公共サービスの継続が困難になっている医療施設や介護施設がでているのではないかと、公定料金等の収入に依存している医療・介護・福祉施設の実態調査を求め、支援策の考え方を質しました。

今野裕文議員は、報酬引き下げだけでなく、人件費や物価高騰で、公共サービスの継続が困難になっている医療施設や介護施設がでているのではないかと、公定料金等の収入に依存している医療・介護・福祉施設の実態調査を求め、支援策の考え方を質しました。

情報提供を行っています。

市としては、今後も物価高騰対策に対する支援交付金等が交付される際には効果的支援を進めたいと考えています。



市立医療施設への

支援はない

担当部長は、(医療施設については) 県で物価高騰への支援制度を設けていて、3月の分まで、民間の方についてはその制度の紹介をしてきました。

ただし、市立病院はその制度を活用できない状況になっていることを明らかにし、しっかり把握できるように実態調査はしたいと回答しました。

新医療センターの建設を早急に進めるべき

今野裕文議員は冒頭、この間の議会の議論についての自らの受け止めに ついて次のように明らかにしました。

第1に、「統合し、医師を集約する なら、新市立病院建設に賛成する」 旨の主張には疑問があります。訪問 診療や在宅医療に重点を置く医師 が、救急医療で年1000件ほどに 対応する病院勤務を希望するとは思 えません。無理な病院統合は、かえっ て今いる医師を失うことにつながるの ではないかと思えます。統合前の医師 が残るといふ根拠はどこにもないと 思います。

第2に、医師確保で四苦八苦して いる病院・診療所であるからこそ。今 いる医師を大事にすることが大事で す。病院・診療所の未来がはつきりし ない中で、病院長や医療局が医師招 へいに困難を極めるのは当然で、耐震 化の問題をかかえ、老朽化している 総合水沢病院の医師確保の保証がな いと責め立てることについて同意でき ません。

第3に、新病院建設は、財政上過 大だ、後の世代に負担を求めるもの だという主張がされていますが、①奥 州市は合併当初1533億円(平成 18年度)あった負債(全会計)を98 8億円(令和5年度)まで前倒しを含 め545億円減らしています。したが って、財政計画に折り込まれている新 医療センターを建築したからと言って 財政破綻はありえないと思えます。 (「奥州市財政白書 令和5年12月

13日パブリックコメント用」から)

また、問題となっている病院等へ の繰り出し金(交付税で3割ぐら い補填される)については、1人当 たりにすれば令和2年で1万32 80円が、令和22年(2040年) で1万8013円になります。現 在の水準までつめるとすれば11 億円ほどにする必要があります。

(新医療センターの規模が現在の 約半分になるうえに、令和22年 (2040年)には、他の病院・診療 所も老朽化し、人口も減少(令和 2年比で73%ほど)し施設更新の 在り方も検討されることが想定 されます。そういう点では繰り出 し金を詰めていくことは可能だと思われまます。(2025年4月新医 療センター住民説明会資料より 推計)

第4に、県立江刺病院との統合 について、1000件前後ある救急 搬送を江刺に搬送することは現 实的でなく、今いる県立病院の先 生方を大事にしていくことの方が 現実的だと考えます。

以上のことから、次世代に「必要 な負担」としてお願ひしながら、 市長が提唱している新医療センタ ー構想は進めるべきだと考えま す。



住民説明会を受けての

考え方は

そのうえで、今野裕文議員は、倉 成淳市長にたいし、住民説明会を受 けての所感について、また、報道や SNSなどで様々な意見表明があり ますが、どのように受け止めて対応 するのか質しました。



立ち止まっている余裕はない

倉成淳市長は次のように応じま した。

説明会では、医師確保策や資金 収支見通しについて疑問視する声 がありました。市立医療施設の統 合や、県立病院との統合も検討す べきでないかとの意見もありまし た。

2040年問題への対応を考え れば、各地域に身近な医療を提供 できる拠点が必要だと考えていま す。水沢病院の老朽化、耐震強化 は待ったなしの課題で、立ち止ま っている余裕はないと判断してい ます。

SNSの件も一定程度は把握し ており承知をしています。新たな 医療拠点の整備事業は、立ち止ま ることなく前に進めるべきだと考 えています。